

災害種別装置点検項目作成に向けた取り組み

岩手医科大学附属病院 中央放射線部 ○阿部 裕平(Abe Yuhei)

岩城 龍平 武田 雅之 佐々木 忠司

【はじめに】

当院の災害発生時の初期対応は、被害状況を把握するための被害状況報告書と発災時取るべき行動を記した災害発生時アクションカードを用いて対応に当たる事となっている。しかし、この被害報告書と災害発生時アクションカードの内容が病院機能維持に沿った構成であったため、撮影装置への具体的な対応が明確化されていない現状があった。

【目的】

当院放射線部における装置点検項目を作成し、初期対応の標準化に向けた取り組みを行う。

【方法】

一般撮影、CT、救急センター、血管造影、手術室、透視、核医学、放射線治療の主任技師に、火災、地震、浸水、停電、サイバーテロの各対応をグーグルフォームで調査し、それをもとに全体のフロー図、災害種別点検項目、モダリティ別点検記録表を作成した。

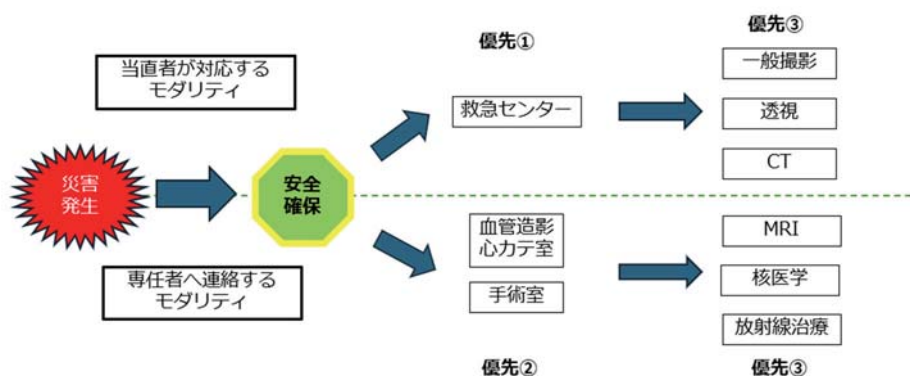
【結果】

全体のフロー図を作成し、災害発生後に対応を優先すべきモダリティ、当直者が対応するモダリティと専任者が対応するモダリティを明確化した (Fig.1)。火災と浸水発生時は、患者とスタッフの安全確保を行い、状況確認と報告をする。その後装置の電

源をシャットダウンし、次に配電盤ブレーカーを落とす。その際CTのブレーカーのみ専任者が対応する。鎮静後に目視で破損や異常の有無を確認し、装置に被害がある場合はメーカーへ連絡する。地震と停電発生時は、患者とスタッフの安全確保を行い、状況確認と報告をする。その後装置の電源をシャットダウンし、次に配電盤ブレーカーを落とす。その際CTのブレーカーのみ専任者が対応する。鎮静後もしくは復電後に目視で破損や異常の確認を行い、可能であれば動作確認を行う。サイバーテロ発生時は、装置の電源をシャットダウンし、状況確認と報告を行い、メーカーへ連絡する。モダリティ別点検記録表は点検をした項目のみに記入をする (Fig.2)。

【考察】

治療、核医学、血管造影、手術室、MRIはスタッフのローテーションが少なく、発災後の対応は安全性と煩雑さを加味し、専任者が行うこととした。今後、当直者の対応可能モダリティが広がり次第再検討を行いたい。検査室から離れた場所で起きた火災と浸水は、鎮静後に目視で破損や異常がないかを確認し、動作確認を行うが、装置に被害が及ぶ場所での火災と浸水は装置内部に破損がないとは考えにくいと、安易な通電は控えメーカーに連絡する。地震と停電は一般撮影と透視は当直者がブレーカーを落とすが、CTは機械室にブレーカーがあり、当直者が操作をするリスクを考慮し専



※スタッフ間の連絡手段は院内PHS、内線電話、携帯電話等を使用してください。停電等で使用不可の場合でも、いずれも定期的に連絡を取り合うなどして安全確認・安否確認をしながら行ってください。

Fig.1 全体のフロー図

モダリティ別点検記録表						
※実施した項目のみに記入して下さい。						
点検日： 年 月 日 点検者：						
モダリティ	装置	時間	状況報告	破損の有無	使用の可否	備考（状況、破損部位、不具合内容など）
救急センター	CT	:	☐	有・無	可・不可	
	透視	:	☐	有・無	可・不可	
	一般撮影（島津）	:	☐	有・無	可・不可	
	一般撮影（東芝）	:	☐	有・無	可・不可	
Angio・心カテ室	血管造影室1	:	☐	有・無	可・不可	
	血管造影室2	:	☐	有・無	可・不可	
	心臓カテーテル室1	:	☐	有・無	可・不可	
	心臓カテーテル室2	:	☐	有・無	可・不可	

Fig.2 モダリティ別点検記録表

任者対応とした。サイバーテロはLANケーブルを抜き院内ネットワークから通信を遮断するのが鉄則だが、対応すべき装置数の多さを考慮し、装置をシャットダウン後メーカーに連絡する対応とした。

【結論】

災害種別の装置点検項目を作成したことで、装置ごとの点検内容が明確となり、発災後初期対応の標準化に寄与したと考える。